

## 第82回火山噴火予知連絡会 全国の火山活動について (平成11年5月～10月)

岩手山では地震活動が継続し、噴気活動の活発化がみられた(別紙のとおり火山活動について統一見解を発表した)。雌阿寒岳、十勝岳、樽前山では火口温度の上昇が観測された。樽前山、浅間山で一時地震回数が増加し、口永良部島で7月以降地震回数が増加した。桜島では7月下旬～8月中旬に噴火活動が活発となった。

### 1. 北海道地方

- 雌阿寒岳**：ポンマチネシリ96-1火口の噴煙量はやや多い状態が続いているが、地震回数は少ない。火口温度は平成10年11月の噴火前と比べて約300℃上昇し、本年10月の現地観測で696℃を観測した。また本年5月以降高感度カメラにより96-1火口付近が明るく見える現象を時々観測した。全磁力観測によると、地下で熱消磁が起こっている可能性がある。
- 十勝岳**：62-2火口の噴煙活動は引き続き活発である。火口温度は平成10年6月以降約100℃上昇し、本年9月の現地観測では518℃を観測した。平成10年10月以降高感度カメラにより火口付近が明るく見える現象を時々観測した。地震活動に特に変化はない。
- 樽前山**：平成8年以降地震活動は増減を繰り返している。今期間も5月上旬と7月上旬の地震が増加し、月回数は5月441回、7月471回に達したが、その後活動は低下している。A火口の温度は本年5月の現地観測で昨年10月の観測と比較して約300℃上昇し、482℃を観測した。さらに5月以降も温度は上昇し、9月の現地観測で602℃、10月の現地観測でも600℃を観測した。ドーム南西火口では本年1月以降活発な噴煙活動が続いている。

### 2. 東北地方

- 岩手山**：(統一見解を発表：別紙)。
- 吾妻山**：7月以降地震回数がやや多い。
- 安達太良山**：5月、6月、7月の現地観測で、沼ノ平において新たな泥噴出跡と平成8年からの泥噴出が継続しているのを確認した。また、沼ノ平南西部では依然として噴気活動が活発であることを確認した。全磁力観測によると、沼ノ平の熱消磁は鈍化した。

### 3. 関東・中部地方

- 浅間山**：8月8日から9日にかけて地震回数が急増し(8日117回、9日180回)、15日まで回数がやや多い状態が続いたが、下旬には通常のレベルに戻った。日回数が100回以上になったのは平成8年12月7日以来である。また8月22日と9月5日に火山性微動を1回観測した(平成9年9月23日以来)。表面現象に特に変化はない。
- 伊豆大島**：7月30日から8月3日にかけて島内東部を震源とする地震活動があり、8月上旬、9月半ばには、島の西海岸から西方海域で地震活動があった。表面現象に特に変化はない。地殻変動観測によると、島の膨張傾向が引き続き観測されている。
- 神津島**：地殻変動観測によると、島の膨張傾向が引き続き観測されている。
- 三宅島**：8月21日と9月6日に低周波地震(深さ26kmと23km)を観測した。表面現象に特に変化はない。地

殻変動観測によると、島の膨張傾向が引き続き観測されている。

#### 4. 九州地方

九重山：地震回数は1日あたり10回以下で推移した。噴煙高度は概ね50～400mで推移した。

阿蘇山：中岳第一火口の火口底は全面湯だまりが続き、南側火口壁下では噴湯現象を観測した。

雲仙岳：5月14日に火山性微動を1回観測した（平成10年11月1日以来）。

桜島：7月下旬から8月中旬にかけて噴煙活動が活発になった。地殻変動観測によると、桜島の北部の隆起傾向が引き続き観測されている。

薩摩硫黄島：地震回数は5月まで1日あたり100回前後で推移していたが、6月以降10回前後に急減した。島内で少量の降灰や有色噴煙が確認されることがあった。

口永良部島：7月以降地震回数が増加し、8月および9月には150回を超え、平成4年以降では最も活発な状態が続いている。表面現象に特に変化はない。